

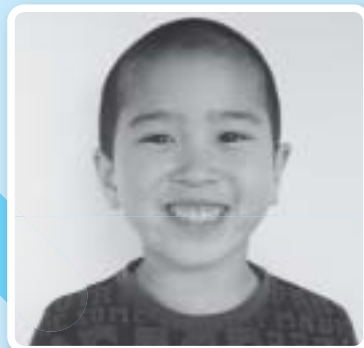
菊陽人 りさーち



にわた なおや
庭田 直弥さん (6歳)
[杉並台]

- 趣味 少林寺拳法
- 将来の夢または今後の目標 ハンバーグ屋さん
- 自慢 友だちを笑わせることです
- みんなにつたえたいこと 毎日外で遊んでいます

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される方は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。
注) 掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している方に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらよりご連絡させていただきます。



たの あゆむ
田野 歩夢さん (6歳)
[武蔵ヶ丘4町内]

- 趣味 少林寺拳法
- 将来の夢または今後の目標 おもちゃ屋さん
- 自慢 折り紙を折ること
- 今一番やりたいことは カタカナの練習を頑張りたい

ゆたかな心をはぐはぐくむ

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
[No.2]

人権学習では、くらしを見つめることを大切にします。
父母の仕事をしっかり見つめることで「労働」の喜びや感謝に気づき、ハンセン病に関する事実や真実に迫ろうとする行動から正しい知識を得ていく子どもの感性が新鮮です。

わたしがお母さんは、げんたんというお米ではない作もつ田んぼを見に行くと、何がうわっているかをしらべ、それをパソコンに入力します。
お母さんは、朝七時五十分家を出て、田んぼに何がうわっているかをしらべるときは、四人一組で、チームを作ります。一人目は、「これはニンジンです」と見てしらべます。二人目は、何がうわっていたかを田んぼのちずにもする人です。三人目と四人目は、家のだいいよつの人です。



元気な3年生(南小)

この人のこぼれ

菊陽南小学校三年 山口 奈緒

わたしがお母さんは、げんたんというお米ではない作もつ田んぼを見に行くと、何がうわっているかをしらべ、それをパソコンに入力します。
お母さんは、朝七時五十分家を出て、田んぼに何がうわっているかをしらべるときは、四人一組で、チームを作ります。一人目は、「これはニンジンです」と見てしらべます。二人目は、何がうわっていたかを田んぼのちずにもする人です。三人目と四人目は、家のだいいよつの人です。
お母さんがしごとをしていてきついことは、たくさんパソコンに入力しないといけないので、頭と目がつかれることです。うれしいことは、しめ切りの日までに、しごとが終わることです。

がんばっているの、たすけたいと思っただけです。お父さんもおそくまでがんばっています。
わたしは、お父さんやお母さんがしごとをして、もらったおきゅうりやうで食べものなどを買ってもらったのが、当たり前前みたいになっていたので、お父さんやお母さんががんばってもらった大切なお金で買ってもらったものを、かんしゃして大切にしていきたいと思いました。

ハンセン病に対する差別や偏見

武蔵ヶ丘二年 高橋 晴香

私が、ハンセン病のことを知ったのは以前、テレビでハンセン病の元患者さんに対する宿泊拒否のニュースでした。このニュースの後リデル・ライト両女史記念館に行き、そこにあった資料やビデオを見たりして、自分がまちがった見方をしていたことに気づかれました。
「らい菌」は感染力がとても弱く、ハンセン病療養所で働いていた職員で感染した人はいないことからわかるように、飲食・入浴などの日常生活では感染しません。一九四三(昭和一八)年にアメリカで「プロミン」という治療薬が開発されて、簡単に治るようになりました。感染率が低く、薬で治る病気なのにいまだに偏見や差別があるのはなぜでしょう。それは明治になり「国が法律までつくって隔離するのだから、ハンセン病は感染しやすい怖い病気」という考えが定着したからです。

約五十年前ある事件が起きました。その事件は「新あつい壁」という映画のもとになった事件です。その内容は、ハンセン病患者の藤本さんが、ハンセン病であることを密告した男を殺害したとされるものでした。藤本さんは無実を主張しましたが受け入れられず、簡単な裁判で死刑判決となったのです。もちろん藤本さんは控訴し、また菊池恵楓園の患者自治会も藤本さんの救援運動をしました。十分な裁判をつけることもできず、藤本さんは無実を叫び続けて死刑になりました。まさに、ハンセン病患者に対する差別裁判でした。
私は「新あつい壁」を見て、藤本さんの人権を無視し藤本さんを人として見ようとしなかった周りの人たちは、患者さんたちに対して差別や偏見という名のあつい壁を作ってしまったのだらうと思いました。その差別や偏見をなくすためにわたしたちができることは、他人事としてではなく、自分自身のこととして受けとめながら、すべての人権が尊重される社会を作っていくことだと思います。



武中生徒のパレード(県子ども集会)

きくよう文芸

菊陽句会報

老いの気がかり少し残して二月尽
高菜漬け香のブンブンと透き零れ
過去は過去今は花菜の匂を温め
父失ひ父を知るなり隙間風
ひそひそと芽吹ききの庭間風
そつとそつと花の匂ひに近づきぬ
小綾鶏に呼ばれたような里の山
むらさきや日暮にゆるる花大根
鳥雲に埴輪の口を洩る吐息
土筆ん坊はじめて出会ふ人と摘む
夏近しエネルギーシユな母となり
大桜空のキャンパスいっばいに
一枝の花に託した浄土かな
原城跡風のうなりや櫻葉
紙雛折りし官女の灰白く
黄帽子の團児の列はチューリップ
そんな事言ひましたつけ雛月
列島を揺がす隣国春の雨

合志 重子
田中 静香
野口 令史
松橋 強
佐藤 澄世
三島 一路
坂本百合子
田中 郁子
村田 正三
井 子文
財津 早雪
原野レイ子
西村ひとえ
カ 幸子
寺尾千代子
高橋 孝子
岩代 和代
佐藤 颯

進級の責任重く登校す
三本のさくらは兄弟みたいだよ
杖曳きて仰ぐや潔しリラの花
明るさは狭庭の葎の花ざかり
鶯や老の一日は夢の知
俱合一処無縁地緑の花の墓所
新学期制服つむ夢いくつ
一用事済ませし一つ日永かな
孫よりの知らせ待ちつつ春電話
村百戸おこわ供えし桜墓地
お隣りに声ありはつと利久梅
万葉の楚々とみやびの花明り
孟宗をどきりと土間に貫ひけり
見上げた本丸御殿春の陣
何故に心騒ぐや花の下
空の涯まで叫びたる卒業歌
三文の徳春雷に目覚めたり

佐藤 健
佐藤 節
吉野 早苗
川口 豊子
井上久美子
宮川ユキエ
日高 妙子
曾我 育代
曾我トモ子
紫藤 祥子
村上 朋子
合志 重子
野口 令史
松橋 強
佐藤 澄世
三島 一路

短歌会

菜の花の畑の中の長き道遠くは白き線となり行く
モーツァルトを我が繰り返し弾く昼の美しい旋律心に残る
祖母という心の灯りを今亡くし笑顔御言葉大きさを思う
熊本の城は桜に囲まれて花散り初めし坂上り行く
白々と岩を乗り越え波立てて流れは下へ勢ひを増す
新緑の木々からまる山藤は薄紫の花今盛りなり
切られても切られても咲く肥後椿真白き花に嵐吹くなり
バイパスの並木に若葉のもえ出でて朝の光に緑つややか
実生より育らしケヤキが枝を張り春の日ざしに緑輝く

今村 貞子
上野 敬子
上野 陽子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆嶋キクノ
森 敦子
柚井 玲子